

特集2

「森を育てて、お菓子を創る」(林商連携事業)

お菓子な郷推進協議会会長 町田 啓介



地域の概況

秩父市は、埼玉県の北西部にあり、面積は57769haで、埼玉県全体の約15%を占めています。都心まで約60〜80km圏に位置し、周囲に秩父山地を眺める盆地を形成しています。市の87%は森林で、その面積は埼玉県の森林の約42%を占めています。林分構成は、地域住民の生活に密着した里山から、林業生産活動が積極的に実施されるべき人工林さらには大径木の広葉樹が林立する天然林までバラエティーに富み、そのほとんどは国立公園及び県立自然公園に指定されるなど、自然環境に恵まれた地域です。

また、秩父市を含む秩父地域では、神社仏閣が多く、年間を通じて多くの祭が行われています。特に秩父市の師走名物「秩父夜祭」は、京都祇園祭、飛騨高山祭と共に日本三大曳山祭の一つに数えられています。

発足の経緯

市内のお菓子製造業者の間では、秩父地域外での自社商品の認知度の低さを痛感していました。そうした中で、この状況を打開するべく市内のお菓子製造業者による「お菓子な郷推進協議会」(以下「お菓子な郷」)が、平成15年3

す。また、地域在住の高齢者と協働して、お菓子な郷で販売している「かえでのラムネ」という飲料の主原料である「カエデ緑葉」を採取しています。



かえでのラムネ

このような山での活動のほかに、秩父地域の住民へ「山の活用」に対する啓蒙活動も行っており、特に、小・中学校への「出前授業」に力を入れています。秩父地域の子供達に秩父の山・森林を知ってもらうことで、森林の活用及び森林が持つ力を伝え広げるもので、内容としては、

- カエデに関する体験実習
カエデの植栽や樹液の採取、秩父カエデ糖を使用したお菓子作り
- 調理実習
生徒が栽培したきのこを用いた調理実習
- 染色体験
秩父地方に伝わる秩父銘仙のコースターの作成と、カエデの枝を染料とした染色体験

といった活動を行っております。この出前授業により、受講した生徒の中から、地元高校のフードデザイン科、森林科学科へ進学し、活躍する者も出てきています。

活動状況(カエデの森づくりを発展させる)

カエデの森づくり事業が進捗するにつれ、お菓子な郷のメンバーと林業関係機関の皆さまとの相互理解が進み、お互いの持つ知恵の共有が始まりました。この結果、カエデの活用に関する新しいアイデアが生まれました。植栽したカエデからメープルシロップを作るための樹

月に設立され、強いブランド力をもった秩父ならではの「お菓子創出にとりかかりました。」

このような中、会員の一人がカエデの樹液からメープルシロップをつくること



カエデの樹液と秩父カエデ糖

できるという話を聞き、秩父市内に自生しているカエデのメープルシロップ(秩父カエデ糖)を活用したお菓子の創出に取り組みました。「森を育てて、お菓子を創る」というスローガンを掲げ、森づくりとお菓子創りを同時進行で開始しました。

平成20年に、6社6品の秩父カエデ糖を使用したお菓子が、世界食品オリエンピックと言われる、モンドセレクションヘントリーし、金メダル2個、銀メダル3個、銅メダル1個を受賞いたしました。秩父産メープルシロップ「秩父カエデ糖」が世界に認められました。

こうしたお菓子な郷の活動を進めていく中で、地域の林業に関わる方々と関係を持つ機会が増え、「このような人たちと何か新しいことが出来ないだろうか?」と考えるようになり、関係者との意見交換を行いました。その中で、林業に関わる方も異業種との連携を切望していることが分かりました。

液が採取出来るのは30年から40年後ですが、紅葉は5年もすれば鑑賞できるようになります。「まずはカエデの紅葉で、秩父地域をカエデの観光名所としてみよう。そのためには黄色く色づくイタヤカエデ、紅く色づくイロハモミジをモザイク(市松模様)等に植樹することも効果的ではないか」とアイデアがまとまりました。明治神宮の森が百年後の森を想像して植樹したように、我々も将来の秩父の山を想像して活動しています。



樹液採取風景

また、「秩父地域は山しかない」と言われ続けてきましたが、この活動により、山から多くの恵みが出てくることが知られるようになり、地域住民の山森林への関心が高まりました。

社会に及ぼした影響

お菓子な郷は、平成17年の発足時に将来構想(ロードマップ)を作成しました。その一つに将来、秩父地域へ全国植樹祭を誘致し、開催する目標を立てました。その結果、全国植樹祭が令和7年春期に、ここ秩父において開催



秩父カエデ糖商品集合写真

活動内容について

お菓子な郷の「森を育てて、お菓子を創る」というスローガンは、言葉通り「お菓子創り」はお菓子屋さん、「森を育てる」ことは地域の林業関係者と、「林商連携」のプロジェクトを協働連携により進めることになりました。

秩父地域のカエデの植生調査を国・県・市の林業関係機関と東秩父演習林の皆さまと調査を進める中で、秩父地域はカエデの生育に大変適していることが分かりました。国内でも稀なこの植生地域は「秩父の奇跡」と呼ばれています。

一方、かつて林業が盛んだった秩父市は、林業就業者の減少・高齢化により山林の荒廃が進んでいました。そこで、持続可能なカエデの活用のために、山林の再生や植栽にも取り組むことにしました。

活動状況(カエデの森づくり、出前授業)

お菓子な郷では、持続可能なカエデの活用のための山林の再生や植栽に取り組んでいます。カエデの植栽は、強度間伐を行ったスギ・ヒノキの森林で年1〜2回(春又は秋)行い、夏季には植栽地の下刈を行っています。これまでに、カエデの植樹本数は、9700本を超えています。

されることとなりました。これは、お菓子な郷の活動もあつての開催と考えます。また、開催に伴い、秩父市の新イメージキャラクターとして秩父産メープルシロップが大好きな「ぶめるちゃん」が令和6年5月に誕生しました。

今後の活動及び展開

山の恵みの活用とそれを育む森づくりの活動が広がっていくことが地域の活性化の一つと考え、森林活用・植樹活動を通じた取り組みをより一層進めます。具体的には、カエデの植栽に取り組み中で、「川上と川下の連携」として都市部の住民と協働を進めていきたいと考えています。まずは、都市部住民が上流域に関心を持っていただけるよう、森林整備の必要性についてPRし、例えば、「森林を適正に管理することで、東京湾に注ぎ込む荒川に土壌中のミネラル成分などがバランス良く溶け出し、このミネラル成分が東京湾で取れる江戸前の鰯ネタを美味しくする。」という認識をもっていたけるよう積極的に宣伝します。その効果として「江戸前の鰯ネタが美味しいのは、秩父のおかげ」と言われるよう取り組んでまいります。

また、都市部の住民が積極的に秩父(森林整備)に係われるよう「森のボランティア隊」を組織します。さらに、様々な方々とのネットワークを構築する中で、お菓子な郷が橋渡し役を担えるように、交流を深めていきたいと考えています。

お菓子な郷推進協議会は、地域に根ざして、地域住民とともに森林を活用した協働連携を引き続き行つてまいります。